

# 子どもの柔軟な発想で授業が変わる！

「郷土愛」をいかに授業するか

使用教材 「ぼくの町も、ひかって！」（光文書院 2年）



加藤 宣行

## 1. 教材について

本教材は、友達のコーちゃんの町に遊びに行つた「ぼく」（かずちゃん）が、コーちゃんの町の祭りに参加し、そこに住む人々の町に対する思いに接する中で、次第に自分の住む町のよさについて考え始めるという話である。

教材名の「ぼくの町も、ひかって！」に関連させながら「自分たちの町のひかっているところはどこだろう」という具体的なテーマで授業を開くことができる。

## 2. 展開のポイント

＜ステップ1＞

まずは、自分の町の「ひかっているところはどこか」を考えさせる。子どもたちはおそらく考えたこともないので、表面的な事象について（「観光スポット」、「便利な場所」、「自然が豊か」、「有名人がいる」など）意見が出されることが予想される。

＜ステップ2＞

教材の中のコーちゃんの町の「ひかってる」ところを探し、観点（人、歴史、伝統文化、自然など）を共有する。その中で、

- ・町を大切に思い、日々努力している人々がいる。
- ・現在のそのような人だけではなく、過去の歴史の中でたくさん的人々が関わっており、その結果、今の町がある。

などということを、子どもたちに気づかせる。

＜ステップ3＞

＜ステップ2＞で共有した観点から、改めて自分の町を見直させる。これにより、＜ステップ1＞では見つけることのできなかった町のよさや、考えもしなかった町の住人として自分ができることについて言及できるようになる。

## 3. 実際の授業

①導入

「あなたの町のひかっているところを見つかりますか。」

・昔、おひめさまがいたんだって。

案の定、子どもたちは考えたこともないせいか、あまり活発な意見は出なかった。

②展開

「コーちゃんの町のいいところはどこですか。」

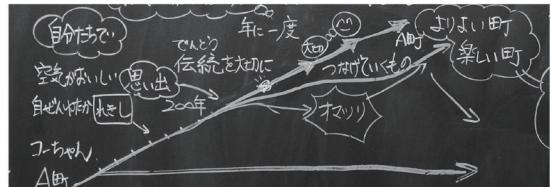
・自然が豊かなところ。

・みんなが楽しめるお祭りをしているところ。

・思い出がつまっている。

・伝統をつなげているところ。

→子どもたちの発言を受けて、伝統をつなげていくイメージで、黒板に連続する矢印を描く。



ところが、ここで次のような、予想もしなかった発言が出た。

・でも、ただつなげていくだけではなく、変えていくのがいい。

(この発言をどのように受け止め、問い合わせる。)

思えば、ここが本授業の一つの山場であった。)

③問い合わせ

「ということは、昔のやり方をやめて、毎年毎年新しくしていくということですか。」

→投げかけると同時に、黒板に矢印でギザギザのルートを書き示す。

・うーん、そういうことじゃないなあ。

(子どもたちも、自分の発言の意味をイメージできずにいたようだが、図式化することによって、二つを比較しながら考えを醸成させていた。)

・先生、ただつなげていくだけでもだめだけど、これまでのことをなしにして新しいことをするということでもないよ。

「え、どういうことですか。」

・その町をもっとよくしようと思いながら、次につなげていくこと。

子どもたちは、「伝統を尊重する」とは、何も考えずに古くから伝わるものを受け継ぐのではなく、住人の責務として必要に応じてよりよくしていくことであることに気づき始めた。その町に住む主体者としての意識である。

(本時では、私はここまで到達を想定しておらず、少々驚くとともに、子どもたちの実態に応じてゴール設定を柔軟に変える必要があることを実感した。)

ここから子どもたちは次々と考えを広げていく。

・私たちの学校だって同じ。校歌にも「光ある桐のかげ」って歌詞があるよ。

「なるほど、確かにそうだね。」

ここで、子どもたちは校歌を歌いました。（まさかここで本校の校歌が引き合いに出されるとは思いもしなかった。）

・どの町にも、ひとつひとつひかっているもの、楽しいことがあるはず。

「ああ、本当だね。どの町にもあるよね。」

・そういう町はきっともっとよい町になるね。

・そういう町は、他の町の人々が来てもきっと受け入れられる。

「そういう町が集まって、日本ができているのですね。」

④終末

・どの町にもきっとひかっているものがあるはず。

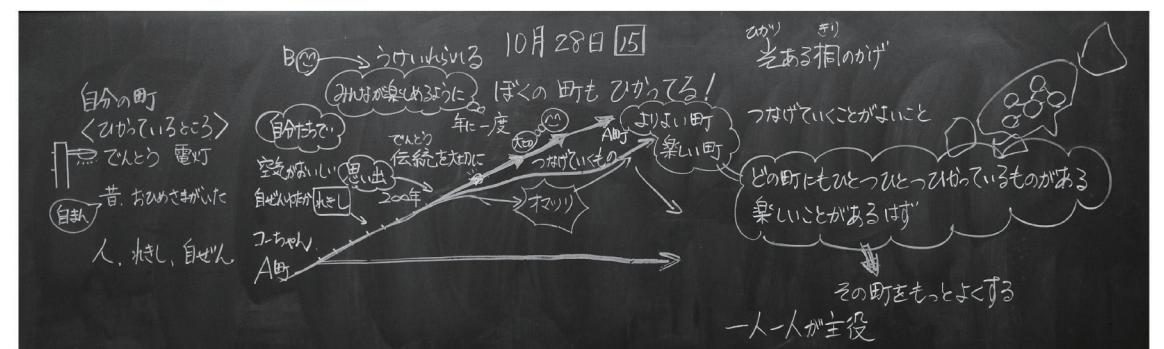
「みなさんなら、自分の町をもっとひからせることができそうですね。」

## 4. 子どもの感想

今日は、「自分の町のひかっているところ」について考えました。さいしょ、わたしは、ひっこして6ヶ月で、町の伝統もよく知りませんでした。けれど、今日のべんきょうで、ゆうめいなばしょや目立つところがなくても、町にはやさしい人がたくさんいてくれて、わたしたちの町をよくしようとしてくれている。それが、わたしの住んでいる町のよいところだと思います。これからも、住んでいる町のひとつひとつよいところを大切にして、一つの目立たない町を、どんどんよくしていきたいです。

## 5. まとめ

子どもたちはコーちゃんの町のよさを見つけながら、伝統を守り受け継ぐとはどういうことかについて考えることができた。町にはそれぞれひかるところがあり、それを守り育てていく人がいる。その人々は、古くからのものをただ後生大事に守っているだけでなく、自分たちの判断で、よりよくしようと工夫し、改善しているのだと考えを深めていった。「伝統を受け継ぐ」意味を子どもたちに教えられた気がした。



▲実際の板書